



## 平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年8月3日

上場取引所 東

上場会社名 マルハニチロ株式会社  
 コード番号 1333 URL <http://www.maruha-nichiro.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊藤 滋  
 問合せ先責任者 (役職名) 広報IR部長 (氏名) 坂本 透 TEL 03-6833-0826  
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月10日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	215,294	4.9	2,754	△32.2	3,368	△15.9	2,176	△44.3
27年3月期第1四半期	205,282	—	4,062	—	4,006	—	3,910	—

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 3,388百万円 (△27.0%) 27年3月期第1四半期 4,639百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	41.34	—
27年3月期第1四半期	78.93	74.27

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	515,173	109,358	17.3
27年3月期	502,016	109,177	17.7

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 89,100百万円 27年3月期 88,893百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	—	—	30.00	30.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	900,000	4.2	15,500	78.4	14,500	22.5	7,000	△3.0	132.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、〔添付資料〕P.3「2. サマリー情報（注記事項）」に関する事項（1）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、〔添付資料〕P.3「2. サマリー情報（注記事項）」に関する事項（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期1Q	52,656,910株	27年3月期	52,656,910株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	14,988株	27年3月期	13,635株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期1Q	52,642,475株	27年3月期1Q	49,544,169株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は世界経済・競合状況・為替・金利の変動等にかかわるリスク等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、〔添付資料〕P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 四半期連結損益計算書 第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書 第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策の効果もあり、企業収益や雇用情勢の改善傾向が続き、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

水産・食品業界では、円安による原材料価格の上昇や人材不足の懸念に加え、消費者の節約志向もあり、依然として不透明な事業環境が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、中期4ヵ年経営計画「Challenge toward 2017 (2014-2017)」の2年目を迎え、引き続き事業基盤の回復に努めるとともに、完全養殖マグロ事業の拡大、ロングライフチルド事業への進出など、「成長路線の遂行」に向けて取り組んでまいりました。

当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は215,294百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は2,754百万円（前年同期比32.2%減）、経常利益は3,368百万円（前年同期比15.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,176百万円（前年同期比44.3%減）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

#### 漁業・養殖事業

漁業・養殖事業は、国内外の水産資源の持続可能かつトレーサビリティの確保できる供給源として、効率的な操業により収益の確保に努めました。

漁業部門では、主力のまき網事業が海外・沖合ともに漁獲不振となったものの、カナダ・ペルーなどの海外事業が好調、養殖部門ではマグロの相場が堅調に推移したものの、ブリの単価下落、カンパチの原価が上昇した結果、漁業・養殖事業の売上高は9,010百万円（前年同期比4.5%増）、営業利益は237百万円（前年同期比53.0%減）となりました。

#### 商事事業

商事事業は、国内外にわたる調達・販売ネットワークを持つ水産商事ユニット・畜産商事ユニット、市場流通の基幹を担う荷受ユニット、及び量販店、コンビニエンスストア、生協、外食、介護食、通販などの業態に特化した戦略販売ユニットから構成され、国内外の市場動向を注視しながらお客様のニーズに対応した的確な買付販売と水産加工事業の強化により、収益の確保に努めました。

水産商事ユニットは、主要魚種全般の高値による荷動きの鈍化に加え、円安及び海外需要増により仕入コストが上昇し、減収減益となりました。

荷受ユニットは、鮮魚・冷凍魚ともに単価高が続くなか、鮮魚を中心に積極的な集荷と販売を進めた結果、売上高は前年並みとなり、コスト削減と利幅確保に努め、増益となりました。

畜産商事ユニットは、畜産品全般の販売価格が堅調に推移したものの、輸入豚肉の利益率低下により、増収減益となりました。

戦略販売ユニットは、エビ、貝類、凍魚などの主要魚種において原料価格の高値が続いたものの、量販店、外食、中食業界向け販売が好調に推移し、増収増益となりました。

以上の結果、商事事業の売上高は109,583百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は1,183百万円（前年同期比9.0%減）となりました。

#### 海外事業

海外事業は、中国・タイにおける水産物・加工食品の販売に加え、オセアニアでの基盤を強化している海外ユニット（アジア・オセアニア地区）、すりみ等の生産を中心とした北米商材の日本・北米・欧州での販売を展開する北米ユニットから構成され、水産物と加工食品の世界的な需要拡大に対応し、グローバル市場における収益の確保に努めました。

海外ユニットは、平成26年9月に子会社化した豪州漁業会社の業績が貢献したものの、タイで製造する欧州向けペットフードの販売不振により、増収減益となりました。

北米ユニットは、助宗すりみの価格上昇、欧州水産物販売会社の販売が好調に推移したものの、米国産鮭鱒缶詰及び冷凍鮭鱒の相場下落により増収減益となりました。

以上の結果、海外事業の売上高は38,646百万円（前年同期比16.8%増）、営業利益は656百万円（前年同期比59.6%減）となりました。

#### 加工事業

加工事業は、市販用及び業務用冷凍食品の製造・販売を行う冷凍食品ユニット、缶詰・フィッシュソーセージ・ちくわ・デザート・ペットフード・調味料・フリーズドライ製品等の製造・販売を行う加工食品ユニット、及び化

成品の製造・販売を行う化成ユニットから構成され、お客様のニーズにお応えする商品の開発・製造・販売を通じて収益の確保に努めました。

冷凍食品ユニットは、市販用新商品及び群馬工場再稼働による販売増に加え、円安による輸入商品及び原材料コストアップに対する価格改定等が進み、増収増益となりました。

加工食品ユニットは、缶詰の価格改定による売上数量の減少、デザート類の販売不振等により、減収減益となりました。

化成ユニットは、医薬品用コンドロイチンの売上数量が減少したものの、DHA・EPAやサケ白子関連製品の販売が好調に推移し、増収増益となりました。

以上の結果、加工事業の売上高は53,155百万円（前年同期比3.4%増）、営業利益は97百万円（前年同期比66.8%減）となりました。

### 物流事業

物流事業は、お客様の物流コスト削減志向による在庫圧縮の傾向が続くなか、水産物をはじめ畜産品や冷凍食品の集荷営業活動に努めました。

当第1四半期連結累計期間は、畜産品を中心とした高水準の在庫と好調な荷動きに加え、輸配送事業の料金適正化に努めた結果、物流事業の売上高は3,897百万円（前年同期比6.2%増）、営業利益は400百万円（前年同期比203.0%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は515,173百万円となり、前連結会計年度末に比べ13,157百万円増加いたしました。これは主として売上債権及びたな卸資産の増加によるものであります。

負債は405,815百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,977百万円増加いたしました。これは主として仕入債務及び借入金の増加によるものであります。

非支配株主持分を含めた純資産は109,358百万円となり、前連結会計年度末に比べ181百万円増加いたしました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月7日に公表いたしました平成28年3月期の通期の業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### （税金費用の計算）

一部の連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 会計方針の変更

#### （企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(3)、連結会計基準第44-5項(3)及び事業分離等会計基準第57-4項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針を遡及適用した場合の当第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を資本剰余金及び利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首において、のれんが1,840百万円、資本剰余金が865百万円、利益剰余金が567百万円、為替換算調整勘定が407百万円、それぞれ減少しております。また、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ34百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,971	13,896
受取手形及び売掛金	101,287	106,749
たな卸資産	147,537	152,154
その他	12,367	14,023
貸倒引当金	△729	△706
流動資産合計	274,433	286,116
固定資産		
有形固定資産		
土地	55,912	55,626
その他(純額)	87,461	88,388
有形固定資産合計	143,373	144,015
無形固定資産		
のれん	14,583	12,338
その他	12,484	12,089
無形固定資産合計	27,068	24,427
投資その他の資産		
投資その他の資産	62,406	65,862
貸倒引当金	△5,265	△5,247
投資その他の資産合計	57,140	60,614
固定資産合計	227,582	229,057
資産合計	502,016	515,173
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	31,108	35,696
短期借入金	176,444	189,276
引当金	1,241	1,380
その他	40,030	39,311
流動負債合計	248,823	265,665
固定負債		
長期借入金	113,145	109,183
退職給付に係る負債	23,796	23,586
引当金	118	292
その他	6,954	7,087
固定負債合計	144,014	140,149
負債合計	392,838	405,815
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	20,000	20,000
資本剰余金	40,617	39,751
利益剰余金	17,971	18,001
自己株式	△21	△23
株主資本合計	78,567	77,729
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,302	7,534
繰延ヘッジ損益	48	38
為替換算調整勘定	4,832	3,659
退職給付に係る調整累計額	142	139
その他の包括利益累計額合計	10,325	11,371
非支配株主持分	20,284	20,257
純資産合計	109,177	109,358
負債純資産合計	502,016	515,173

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	205,282	215,294
売上原価	177,364	187,737
売上総利益	27,918	27,557
販売費及び一般管理費	23,855	24,802
営業利益	4,062	2,754
営業外収益		
受取配当金	514	567
雑収入	888	822
営業外収益合計	1,402	1,390
営業外費用		
支払利息	674	614
雑支出	784	162
営業外費用合計	1,459	777
経常利益	4,006	3,368
特別利益		
受取補償金	—	1,318
その他	17	126
特別利益合計	17	1,444
特別損失		
減損損失	—	418
移転損失引当金繰入額	—	178
その他	35	140
特別損失合計	35	736
税金等調整前四半期純利益	3,987	4,076
法人税等	△638	1,511
四半期純利益	4,626	2,564
非支配株主に帰属する四半期純利益	715	388
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,910	2,176

## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)
四半期純利益	4,626	2,564
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	812	2,269
繰延ヘッジ損益	8	△9
為替換算調整勘定	△767	△1,408
退職給付に係る調整額	139	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	△180	△26
その他の包括利益合計	13	823
四半期包括利益	4,639	3,388
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,025	3,222
非支配株主に係る四半期包括利益	614	166



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	漁業・ 養殖	商事	海外	加工	物流	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	8,620	107,394	33,097	51,410	3,668	204,192	1,089	205,282	—	205,282
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,791	3,681	8,622	1,422	1,303	17,821	79	17,900	△17,900	—
計	11,412	111,075	41,720	52,832	4,972	222,013	1,169	223,183	△17,900	205,282
セグメント利益	504	1,300	1,624	292	132	3,853	213	4,066	△3	4,062

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料等の保管業、海運業、不動産業及び毛皮の製造販売業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△3百万円には、セグメント間取引消去△96百万円及び全社費用配賦差額92百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	漁業・ 養殖	商事	海外	加工	物流	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	9,010	109,583	38,646	53,155	3,897	214,293	1,000	215,294	—	215,294
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,658	3,671	10,001	1,473	1,386	20,191	76	20,268	△20,268	—
計	12,668	113,255	48,647	54,629	5,284	234,485	1,077	235,562	△20,268	215,294
セグメント利益	237	1,183	656	97	400	2,576	49	2,625	128	2,754

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料等の保管業、海運業、不動産業及び毛皮の製造販売業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額128百万円には、セグメント間取引消去△33百万円及び全社費用配賦差額162百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。